



ニホンザル侵入防止柵の効果検証

～通電式ネット柵を活用した被害防止対策～

サル等の被害が多かったトウモロコシ畑に、通電式ネット柵を設置したところサルやアナグマに侵入されたことから、ネット上部に柵線を追加するとともにネット外側に2段の電気柵を設置して改良したところ、侵入を防止することが実証できた。

また対策意識の向上が図られ、被害を受けにくい品目へ作付転換が図れた。

市町村	片品村		
地区	菅沼		
集落戸数	41戸	農家戸数	35戸
農地面積	1,700a		
主な作物	トウモロコシ、リンゴ、ダイコン		
加害獣種	イノシシ、サル、シカ、クマ、アナグマ		

背景

当地区では、サルによる農作物の被害が急増しており、その対策が急務とされていた。

そこで関係機関が協力してH21年度にサル対策実証圃として通電式ネットを設置したが、サルによるネットのつり下げやアナグマの潜り込みによる侵入があったことから、この問題を踏まえながら再設置・改良を行う必要があった。



【実証圃】通電式サルネット柵

事業内容

【主な取組】

- ◆ 前年度設置した通電式ネット柵の改良
 - ・ 上部にサル対策の柵線1段を追加
 - ・ ネット外周にアナグマ対策の2段の電気柵を設置
- ◆ センサーカメラによる出没調査の実施
- ◆ 片品村第一区有害鳥獣被害対策協議会で取組報告

【取組経過】

H22年	7月	通電式ネット柵設置
	8月	対策強化のための改善
	6~12月	センサーカメラ設置
H23年	2月	事業実績報告及び検討会



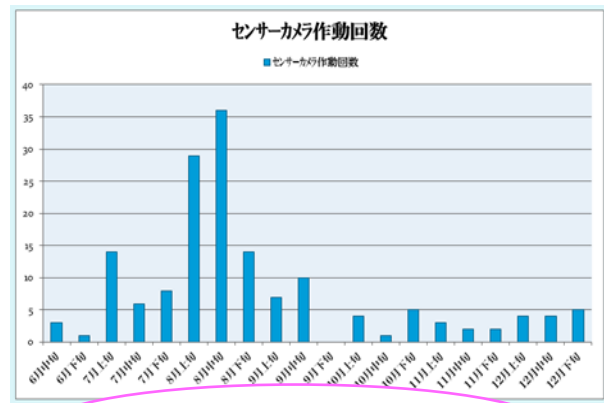
サルによるネットつり下げ対策のため上部に柵線を1段追加



アナグマ防止のためネット外側に2段の電気柵を追加

成果

- ◆ 通電式ネット柵を改良することによりサルの侵入を防止できることが実証できた。
- ◆ 対策意識の向上が図られ、被害を受けにくい作目への転換が一部に進んだ。
【トウモロコシ・ダイコン
→ ハウストマト・ミョウガ等へ】
- ◆ 地域内でのサル出没情報の共有が進んだ。



対策協議会で出没調査結果を報告し対策検討



地区代表者 コメント

獣害に対する知識が高まり、被害を受けやすいトウモロコシから被害を受けにくいハウストマトなどに切り替える農家が増えた。



事後評価

指標	A	B	C	D
被害	減った (5-10割)	減った (-5割)	変わらない	増えた
出没	減った (5-10割)	減った (-5割)	変わらない	増えた
集落環境	改善した	やや改善した	変わらない	悪くなった
集落ぐるみの取組	出来ている	概ね出来ている	一部出来ている	出来ていない
対策実施	よく実施している	概ね実施している	一部実施している	実施していない
波及性	波及した	概ね波及した	一部波及した	波及していない
効果の実感	満足	やや満足	やや不満	不満

センター評価

個々での対策が中心の地域であるが、対策意識は高く必要に応じて地域の連携を図っており、獣害対策としての作付品目の変更も導入されている。

集落ぐるみの取組は充分でないが、地域での対策体制は整備されている。

課題

集落全体での追い払いなどサル対策を更に進めていく必要がある。